

JCI 四国支部幹事会資料

四国の生コン技術力活性化委員会の活動方針(案)

JCI 四国支部 幹事 古田満広

1. 委員会の目的

生コン業界の現状は、他の産業と同様あるいはそれ以上に経営が厳しいといえる。昨年の3.11以降、コンクリートの重要性が見直されつつあるが、V字回復は、成熟した社会では期待できないと考える。また、コンクリートに要求される社会的ニーズは、例えば品質管理では単位水量の推定、あるいは計量値管理などレベルアップ化し、高強度化、収縮ひずみの低減、リサイクル材の活用など要求品質も多様化している。このような状況により疲弊し、また JIS 管理業務に忙殺され、生コン工場の技術者は積極的に技術開発等にチャレンジする意欲が失われつつあるように思われる。したがって、コンクリートに要求されるニーズの多様化、高度化に対応するためには、生コンの製造に関係する技術者は常に技術力向上の意識を持つとともに、それを実施する機会がなければならない。そこで、四国の生コン工場の若手技術者の人材育成をも視野に入れ、生コン工場の技術者を活性化する機会とすることを委員会の目的とする。

2. 委員および委員長、幹事長

委員は、学会誌「コンクリート工学」7月号で公募する。各県の生コン工業組合あるいは組合員生コン工場に所属している技術関係者2～3名を基本とする。材料メーカー等からの応募があれば受け入れる。委員の選抜は委員長が行う。

委員長を島 弘（高知工科大学）、幹事長を古田満広（香川県生コン工組）とする。

3. 活動内容

【第1回委員会開催】8月上旬

- ・ 各委員より研究テーマおよび実験(アンケート調査等含む)活動計画を報告する。委員会で協議し、最終的な研究テーマおよび活動計画を決定する。

【実験等実施】8月～2013年5月

2013年5月末までに実験等の結果について考察できるよう、実験を行う。

【第2回委員会開催】11月下旬～12月上旬

- ・ 実験結果等活動の中間報告を行う。
- ・ 問題点等を抽出し、必要があれば実験の追加等を決定する。

【第3回委員会開催】2013年3月

- ・ 実験結果等活動の中間報告(2回目)を行う。
- ・ 問題点等を抽出し、必要があれば実験の追加等を決定する。

【第4回委員会開催】2013年6月

- ・ 実験等の結果および考察について報告する。
- ・ 問題点等を抽出し、必要があれば実験の追加等を決定する。
- ・ 報告書の纏め方について協議する。

【第5回委員会開催】2013年10月

- ・ 個別報告論文を最終チェックする。
- ・ 成果報告論文集の作成について確認する。

4. 成果の報告

2014年4月のJCI四国支部通常総会で成果報告論文集を配布する。

なお、コンクリートに関する技術的研究成果を発表する場として全国生コンクリート工業組合連合会主催の生コン技術大会が隔年で開催されている。また、唯一のコンクリート専門学会である本学会が主催する年次大会が毎年各エリア持ち回りで開催され、600編以上の論文が発表されている。しかし残念なことに本大会においては、大学関係者、あるいは大手ゼネコン等の発表事例が多く、生コン関係者は極めて少ないのが現状である。今年度の年次大会は広島市で開催されるが、2年後の2014年には高松市開催で準備が進められている。四国での開催は2004年の高知市以来であり、地元開催が四国の生コン業界の活性化のモチベーションになると考え、各県が1編以上の研究発表を行うことを目標とする。その発表対応のために、2014年3月に第6回委員会を開催する。

5. 予算

出張旅費：¥9,200×9名×3回/年 = ¥248,400/年

以上